

球磨地域における茶新品種‘さきみどり’の生育特性

クロロフィル含有量が高い緑茶新品種‘さきみどり’は球磨地域における主要品種‘やぶきた’と摘採期が同じ品種である。また、収量は一、二番茶とも多収であり、荒茶品質面でも‘やぶきた’と同等に優れている。

農業研究センター球磨農業研究所(担当者:西澤 法聖)

研究のねらい

球磨地域は県内有数の茶生産地帯であり、乗用型摘採機の導入が行われ、大規模機械化体系での生産が行われている。しかし、主要品種‘やぶきた’が栽培面積の約9割を占めており、また遅場地帯であるため、耐寒性の強い早生品種が求められている。

そのため、球磨地域の気象条件に適応し、特徴ある茶生産に適応する品種の選定を行う。

研究成果

1. 球磨地域において、‘さきみどり’は多収・良質であり、荒茶品質の外観面では形状、色沢で優れ、特に色沢は「かぶせ茶」様の色合いを呈するため、荒茶色沢の改善につながる(図1、表2)。
2. 荒茶品質の内質面では‘やぶきた’と比べ、滋味がやや淡白ではあるが、荒茶成分は‘やぶきた’と同等である(表2、3)。
3. 球磨地域における‘さきみどり’は主要品種‘やぶきた’と萌芽期、摘採期とも同時期(御船町茶業研究所では摘採期は1日早い)である(表4)。

普及上の留意点

1. 定植後5~7年目の成果である。
2. 萌芽期及び摘採期が‘やぶきた’と同時期であるため、摘採期の拡大は行えないが、‘やぶきた’改植の際に導入することで色沢の良い荒茶生産に寄与できる。
3. ‘さきみどり’は温暖な地域では早生品種であり、球磨地域の冬期の寒さに対するの注意が必要である。

【具体的データ】

No.427 (平成21年9月)分類コード01-08 熊本県農林水産部

表1 品種の特徴

| 品種名 | 育成場所 | 特徴 |
|-------------------|------|--|
| さきみどり (茶農林47号) | 宮崎県 | 樹勢はやや強。耐寒性はやや強である。炭疽病には中、輪斑病にはやや強。品質は‘やぶきた’と同等である。 |

注) 宮崎15号に関する育成成績書より抜粋

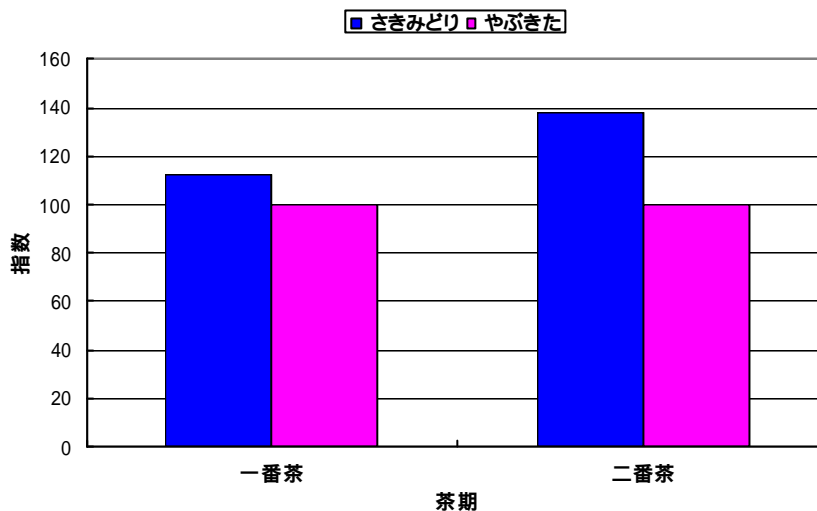


図1 ‘さきみどり’と‘やぶきた’の一、二番茶収量

注1) 一番茶は2006～2008年の3ヵ年平均、二番茶は2007年の数値。

注2) ‘やぶきた’の収量を100とした場合の指数表示

表2 各品種の官能審査結果

| 品種名 | 形状 | 色沢 | 香気 | 水色 | 滋味 | 内質計 | 合計 |
|-------|---------------|------------|------|------|--------------|------|------|
| さきみどり | 19.7 やや細よれ | 20.0 鮮緑 | 19.0 | 19.0 | 18.7 やや淡白 | 56.7 | 96.3 |
| やぶきた | 19.3 | 19.0 | 19.7 | 19.3 | 19.7 | 58.7 | 97.0 |

注) 審査は6人の合議制による20点満点評価。2006～2008年の3ヵ年平均。

表3 各品種の荒茶成分分析結果

(乾物%)

| 品種名 | 全窒素 | 遊離アミノ酸 | テアニン | 粗繊維 | タンニン | N/F値 |
|-------|-----|--------|------|------|------|------|
| さきみどり | 5.4 | 3.0 | 1.7 | 19.4 | 13.0 | 0.26 |
| やぶきた | 5.4 | 3.3 | 1.8 | 20.0 | 12.5 | 0.27 |

注1) 2006～2008年の3ヵ年平均。

注2) 近赤外分光光度計RT-3による分析結果。

表4 各品種の萌芽期及び摘採期

| 品種名 | 場所 | 萌芽期 | 摘採期 |
|-------|-------------|-------|-------|
| さきみどり | あさぎり町(球磨農研) | 4月3日 | 5月8日 |
| | 御船町(茶業研究所) | 3月27日 | 4月29日 |
| やぶきた | あさぎり町(球磨農研) | 4月3日 | 5月8日 |
| | 御船町(茶業研究所) | 3月28日 | 4月30日 |

注) あさぎり町は2006～2008年の球磨農業研究所における3ヵ年平均。御船町は2005～2008年の茶業研究所における4ヵ年平均値。